



5月 阿部ともこ衆議院議員と水野もとこさんと立憲民主党の街頭宣伝活動@茅ヶ崎駅前



6月 石橋みちひろ参議院議員 宮城NTT労組湘南分会長 & 夫と@藤沢の組合事務所



7月 パリテ・アカデミー合宿のグループワークの発表@京都



9月 神奈川県連の定期大会で決意表明@横浜



10月 朝の12区の街頭宣伝活動@本鵜沼駅前



11月 仲間たちと政策ワークショップ@鵜沼茶房

柳田 あゆプロフィール

- ▶1971年7月29日、藤沢市鵜沼海岸生まれ
- ▶聖マルコ幼稚園▶藤沢市立鵜沼南小学校
- ▶玉川学園中・高等部、1994年 玉川大学農学部農学科 食料経済学研究室卒業
- ▶セコム(株)本社ホームセキュリティ事業部
- ▶特別養護老人ホーム白鷺苑
- ▶こぶし荘デイサービスセンター

【地域活動】

- ▶こども食堂「まりあ食堂」地域代表
- ▶弁天橋花いっぱい愛好会会員
- ▶片瀬地区人材・情報バンクセンター 初代ボランティアコーディネーター

【政治歴】

- はじめて本格的に政治に関わったのは、父・葉山峻の6期目の市長選挙でした。その後、衆議院議員葉山峻国会事務所、藤沢事務所秘書を務めました。
- ▶衆議院議員あべともこ 藤沢事務所秘書▶神奈川県議会議員 脇れい子秘書
 - ▶りっけん神奈川政治塾1期生

【その他】

- ▶夫、娘、義母の4人家族。片瀬山在住
- ▶趣味はウクレレ、ガーデニング、ベランダ菜園、小学校3年から14年間やっていたテニスを再開したいです!
- ▶連絡先:yanagida@ayu.oops.jp

朝のピラ配りで湘南海岸公園駅へ。ここは地元の友だちに会えるので気分が上がります♪

毎週月・水の朝と、土日祝日のいずれかのお昼に、街宣活動をしています。見かけたら声をかけて下さいね♪



立憲民主党 立憲民主編集部

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-12-4
ふじビル3F
Tel. 03-6811-2301
Fax. 03-6811-2302



柳田あゆHP
人を大切にする政治を



2023年統一自治体議員選挙
藤沢市議会議員選挙

柳田あゆ さん を紹介します

公認
決定

人と暮らしに寄り添う政治
柳田あゆさんに期待します

衆議院議員 あべともこ

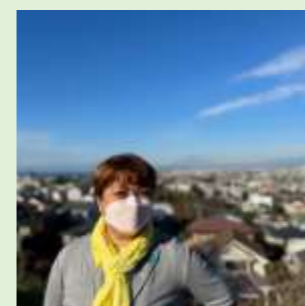


私が柳田あゆさんにお会いしたのは、もう20年以上前です。私は藤沢で衆議院選挙をたたかい社民党の比例区で議席を与えられ、あゆさんは、民主党の比例区候補として当選されたお父様の葉山峻さんの秘書でした。当時、葉山さんは新しく立ち上がった民主党の希望の星でした。長年の藤沢市長の経験の上に地方自治から国政を変えていくホープとみなされていましたが、その後お体を壊されて、あゆさんがその活動を支えることとなりました。また彼女の夫は2003年に市議会に初当選し、現在は立憲民主党に所属し私とともに活動しています。あゆさんは娘として、妻としてこの20年余り政治家を支えてきたと思います。

そんなあゆさんが、来春の統一自治体選挙で彼女自身が候補者として立ち、皆様のご支援を仰ぐことになりました。長年の裏方としての存在から、いよいよ表に出るわけですが、私は彼女こそ優しさ

と人の苦しみに寄り添う、またとない感性と行動力を持った女性として、是非政治の場に自ら参加して欲しいと以前から願っていました。

生活の破壊や精神的な孤立を深めて統一教会に助けを求める人達を生んでいるいまだからこそ、柳田あゆさんのような、人と暮らしに寄り添う自治体議員の存在は不可欠だと思います。彼女が選んだ自ら立つという新しいチャレンジに、夫も全面応援、亡くなられたお父様もきっと期待しておられると思います。またお祖母様は、戦前たったひとりで街頭でマイクを持ち反戦とアジアとの連帯を訴えていた市議会議員・葉山冬子さんと伺いました。その遺伝子と、彼女が長年政治活動を陰で支えてきたという粘り強さ、そして感性と行動力に心より期待しています。



こんにちは!柳田あゆです。現在、藤沢市議会は定数36に対し女性は6名。県内市議会平均の22.9%を下まわっており16.67%という残念な現状に。多様な意見を反映するために、政策決定の場に女性が増えなければいけない、と思い市政にチャレンジすることを決意しました。私は藤沢で生まれ、育ち、働き、家族をもち、ずっと藤沢で暮らしてきました。

藤沢市は自然が沢山残っているながら便利な都会的な魅力もあります。コロナ禍にあっても人口が増え続けているように、多くの方が住みやすいと感じているのだと思います。しかし、日本全体を考えた時、これからは少子高齢化や税収の減少等先行きは楽観できません。加えてひとり一人はそれぞれに生きづらさを感じたり、困難を抱えたりしています。藤沢に生まれ育った人も、魅力を感じて藤沢を選んで住んでいる人も、誰もがいつまでも安心して暮らせる藤沢であってほしい、そんなまちづくりに取り組んでいきたいと考えています。

子ども食堂を “みんなのインフラ” に

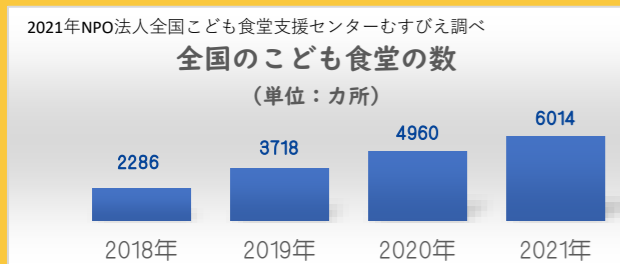
【子ども食堂とは】

皆さんは「子ども食堂」にどのようなイメージをお持ちでしょうか。一般には「生活困窮世帯が利用するもの」といったイメージかもしれませんが、いろいろなカタチがあります。

たとえば、
A. 日々の食事不足しがちな困窮世帯の子を対象とする、
B. 子どもの孤食や親の孤立を解消する、
C. 対象を限定せず交流を目的とする、に大きく分けられると考えます。

“子ども食堂”のカタチの例		
目的	利用者	運営の担い手
A. 困難を抱える家庭への支援	生活困窮世帯	支援団体など専門職
B. 子どもの孤食、親の孤立の解消	支援を必要とする家庭	地域のボランティア
C. 地域の交流	特に限定せず	地域のボランティア

A. は、行政のソーシャルワーカーや心理士などと連携して行われることもあり、専門性が求められます。
B. は、私が参加している“まりあ食堂”の活動に一番近いかもしれませんが
C. は比較的、よく見られるタイプで、「子ども食堂」と名乗らないことも多いようです。
いずれにせよ、“子ども食堂”とは、子どもが1人でも行ける無料または低額の食堂で、「栄養のあるしっかりした食事の提供」「孤食の解消や食育」とともに、多世代が集う「交流の場」としての役割も果たすものです。2021年の調査では、全国におよそ6000か所のこども食堂があり、この数年で急速に増えています(下グラフ参照)。



【子ども食堂の“実践”】

私は、『NPO法人 全国こども食堂支援センター“むすびえ”』代表の湯浅誠さんの「子ども食堂は、子どものためだけでなく、子育て中の親、ボランティアの高齢者や引きこもりの若者などにとっての居場所になっている。子どもの貧困対策、子育て支援、介護予防、虐待予防などの多くの機能を持つ」 「子ども食堂の量的拡大と質的拡大、そして社会インフラ化させることをめざす」

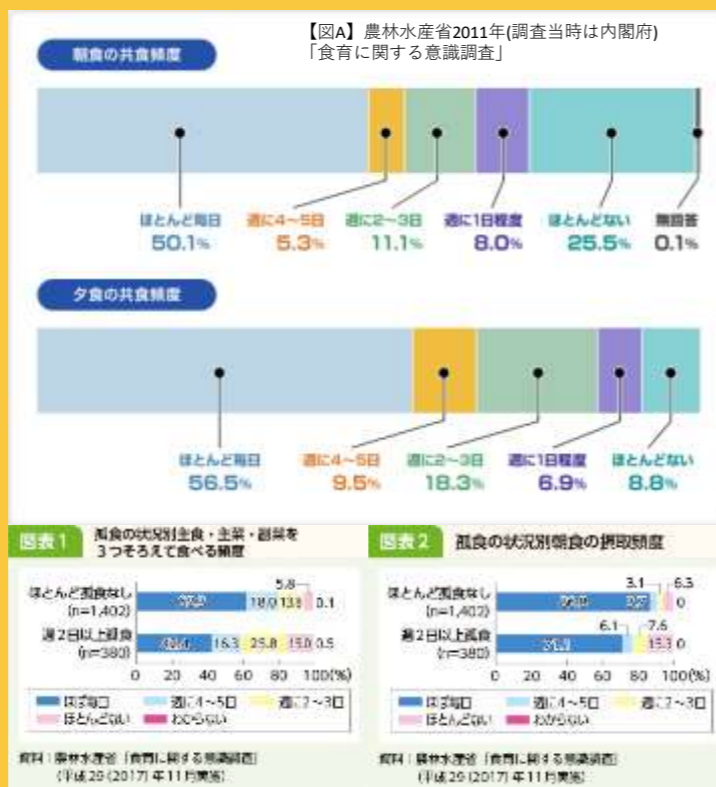
との考えに共感し、いつか自分も子ども食堂をやりたいと思っていたところ、同じような思いを持つ仲間たちの偶然がいくつも重なり、6年前の2016年6月から地元・片瀬地区の“まりあ食堂”に関わるようになりました。現在、毎月第一木曜日に開催しています。会場は、教会と信徒の皆さんのご厚意で“カトリック片瀬教会”を使わせて頂いています。参考として、下記のQRコードを読み取り、『こども食堂のカタチ』という11分と短い動画をご覧いただければと思います。



こども食堂のカタチ 重江良樹(映画監督) 2018年

【孤食・孤立化の解消と地域のやりがい】

国の調査によると、家族と一緒に食べる頻度について、「ほとんど食べない」と答えた人の割合は、朝食は25.5%、夕食に至っては8.8%と、家族がそろって食卓を囲む機会が少なくなり、「孤食」が増えています。また、誰かと食事を共にする頻度が高い人は、①心の健康状態について、「気が散る・根気がないなどの精神的な自覚症状が少ない」、②食生活について、「ファストフードの利用が少ない」、「野菜や果物など健康的な食品の摂取頻度が高い」といった傾向がみられたそうです。このように、育ちざかりの子どもだけでなく人々の精神面や栄養面からも、子ども食堂の役割は注目されています。(図A、図表1.2参照)



また、私は子ども食堂の運営を通じて、親や配偶者に頼ることができず独りで育児を担ういわゆる「ワンオペ」の親御さんたちが「孤立」や「つながりの貧困」と呼ばれる状態にあると感じていました。そうした方のために、育児の相談や、時には福祉相談などを受けて専門機関へ繋ぐこともあり、一定の役割を担っていると思っています。そして、最近ではボランティアに参加して下さる方々に「子どもたちやボランティアの仲間たちに会えるのが楽しみ」と言ってもらえるようになりました。



【ネットワーク化に向けて】

こうして、私たちの“まりあ食堂”は回を重ねるごとに手応えを掴んできましたが、
・相談を専門機関に繋ぐノウハウがない
といった、課題が生じ「先行する他の団体の知恵を借りたい」という声が聞こえてくるようになりました。また、子ども食堂は月1回の開催というところが多く、必ずしも広く周知していないことから、利用希望者からは
・「いつ、どこで、誰を対象におこなわれているか」分からない
という声も聞かれます。こうした課題に対応するために、藤沢市内の子ども食堂のネットワーク化に向けて動き始め、私も参加しています。また、フードバンクやフードドライブ、企業からのご寄付の品の他、

コラム ~市長の家に育って~

私の父は、6期24年にわたり藤沢市長を務めた葉山峻です。私が幼い時から社会人になるまで、父親が市長、という環境でしたが、父の施政を理解していたかと言うと心もとない、というのが本当です。しかし、その後、父が国政に転身した際に私が秘書として勤務したことを皮切りに、市議の夫の仕事を手伝ったり、阿部知子衆院議員や脇礼子県議の秘書を務めるうちに、父の手掛けた政策を知る機会が増えました。父の施政は「みどりと太陽と潮風のまち藤沢」「市民による人間都市藤沢」をスローガンに、福祉と健康、環境、市民参加など、まさに人を大切にする政

JAさがみ直売所からのご寄付など、食材を提供していただく際の受け皿としても、子ども食堂を束ねる何らかの組織が必要だと考えています。



藤沢市環境部環境総務課HPより

【子ども食堂を社会のインフラに】

“むすびえ”の湯浅さんは、国連が掲げるSDGs=持続可能な開発目標、の「誰一人取り残さない世界の実現」に、子ども食堂が最も有効なツールになる、とおっしゃっています。そして、「子ども食堂を社会のインフラにしよう」と、各小学校区にひとつ子ども食堂を、と唱えています。私も、「子どもたちが安心して過ごせる居場所」で「地域の人々の交流の場所」としての子ども食堂が、あって当然の=インフラ、になれば心豊かに過ごせる藤沢市になると思います。そのために、「市内35の小学校区毎に一つの子どもの食堂」を目標に、政策をすすめていきたいと考えています。

治だったのだと理解するようになりました。そして、自らの戦争体験から、生涯にわたり尽力した平和・非核活動と、書物や芸術をこよなく愛した父らしい文化政策の充実も、今になって父の目指していたものが分かる気がします。私も、「人を大切にする政治」をモットーに、「みどりと太陽と潮風のまち」藤沢のために尽くす決意を新たにしています。(柳田あゆ)



両親と弟と幼稚園児の私